

【クレーム情報】

水性処理による色泣き

汗で汚れた夏物衣料を扱うことが多くなる時期は、水洗いによる事故も多く発生する傾向にあります。
水洗いによる事故を防ぐには、その品物が水洗いできるかどうかの適切な判断が求められます。
今回はその典型例を紹介します。

■事故の状態

白地に黒色柄のジャケット。衿回り、脇下等の黒色柄周りに青色がにじんだような状態になっている。

■原因

取扱ひ絵表示では水洗いを禁じていることから、水に対する染色が不堅ろうであることが推測できる製品であったが、汗などの付着を考え、部分的に水性処理を行ったところ、黒色の染色が水に溶け出して白地部分を汚染した

■事故の防止対策

取扱ひ絵表示で水洗いを禁じている製品に水を使用する場合は、あらかじめ水に対する染色堅ろう度をチェックした上、染色が不堅ろうと判断されるものは、水

による処理を避けること。特に濃淡の著しい色柄製品については十分な注意が必要。

■水を使用する場合の配慮事項

汗の除去に、部分的な水性処理やウエットクリーニングを選択する場合には、染色堅ろう度のチェックに加えて、次のような事項に配慮を必要とする。

1. 水による弊害への配慮

洗たく物によっては、収縮、パツカリ（縫い目付近に細かなしわが生じる現象）、移染、色泣き、変退色、各種加工の脱落など、修正不可能な状態に変化することがある。

このため、品質の確認（予備試験）を厳重に行うとともに、水による処理を行うことで想定される不都合については利用者の十分な理解および了解を得てから処理すること。

2. 環境配慮

過去にテトラクロロエチレンによるドライクリーニングを実施したことが明らかでない物は、テトラクロロエチレンが洗たく水中に溶出して排出される可能性があるため、ウエットクリーニングは避けること。

3. 素材別の配慮

・毛は、湿潤状態で機械作用が加わることでフェルト収縮するため、水洗いの対応がされていない製品に対しての機械力はできる限り小さくすること
・絹は、白化しやすいので特に湿潤時の摩擦を極力抑えること

・レーヨンは、乾燥時と比べて湿潤状態での引っ張り強度が大きく低下するため、過度の張力をかけないこと



写真1 白地に黒色柄のジャケット



写真2 黒色柄の周りに青色がにじんだようになっている

- 品名…婦人用ジャケット
- 素材…綿80%、アクリル20%
- 取扱ひ絵表示…
- 処理方法…洗浄に際し、衿、脇下に前処理